

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503445		
法人名	株式会社 グローバルケアマネジメント		
事業所名	ポテタウン 北の沢		
所在地	札幌市南区川沿1条3丁目5 - 23		
自己評価作成日	平成23年5月10日	評価結果市町村受理日	平成23年6月8日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503445&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年5月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人的環境に配慮した活動を心がけています。
介護者である私たちも環境であると考え、実践に取り組んでいます。
認知症の人は、接している私たちの動きや言葉かけ一つで、その人の楽しさが悲しさにかわることがあります。目の前の認知症の人が私たちに送っている沢山のサインに気がつかなければその人に適したケアは出来ません。
私たちに必要なのは、それらを感じる心、読み取る力と、適切な対応を考えながらそれらを展開し、実践することです。
私たちはこれらのことを常に心にとめて、人的環境に配慮した活動を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の、藻岩山南側の住宅地にある2階建て1ユニットのグループホームである。周辺には緑が多く、市街地を見下ろせる立地となっている。建物は2世帯住宅を改装した家庭的な造りで、家具や調度品も親しみやすいものが置かれている。理念を職員全員で確認しつつ、さらに「今のこの時間を大切に」という思いを共有して生活支援を行っている。職員同士の良好な人間関係が保たれ、チームワークが良く取れており、利用者の安心にもつながっている。家族への情報提供の面では、来訪時に詳しく話をするほかに、「介護担当者の感じた変化の要点」を記載した書類や医療情報の記録もそのまま提供し、意見や要望を聞いている。利用者の思いや意向についても日々の介護の中で気付いた点を細かくアセスメントシートに記載し、情報を蓄積し共有している。アセスメントシート作成時の家族との情報交換も積極的に行われている。医療面では事業所から医療機関に伝えるべき情報を整理するとともに、医療機関からの情報も適切に記録し、家族に正確に伝えている。また、職員の利用者に対する言葉遣いや対応などの教育にも力を入れている。利用者や職員の会話が長く、散歩や買い物など活発に活動しており、明るく過ごすことができるグループホームである。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議でも、理念の意義を認識し、研修を行い、新規採用時にも理念をもとに研修を行っています。	理念の中に「住み慣れた地域での安心した暮らし」という文言があり、地域密着を意識した理念を確立している。理念は居間などの共用スペースに掲示され、職員は理念を理解し日々の業務にあたっている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	冬、雪の期間は外出することは少ないが、暖かい季節等は、庭での外気浴や散歩の時など近所の方々と気軽に会話を楽しみ、近所の独居老人の見守り等、日常的に交流しています。	散歩をする際に近所の方と会話したり、花畑を見せてもらっている。音楽演奏や介護研修のボランティアの来訪も受けている。また、事業所として近所の独居老人への声かけも行っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などに集積いただいている民生委員の方や町内会を通じて、認知症に対する理解や悩み事の相談など、いつでも協力することを伝え、実践しています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度定期的開催し、全てのご家族に参加を呼びかけ、参加いただけなかった方にも議事録を送り意見や情報の交換に努めています。	運営推進会議は2ヶ月に1度のペースで開催され、地域包括支援センター職員、町内会副会長、民生委員、家族代表などの参加を得て、行事や防災、外部評価などのテーマで意見交換されている。また、議事録を家族に送付している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区の管理者会議だけでなく、地域包括支援センターや地域を代表する方々にも情報提供していただけるようお願いしています。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得ており、市や区の管理者会議などでも行政担当者と関係を築いている。最近ではスプリンクラーの設置の手続きで市に相談している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りを徹底し、身体的にはもとより、精神的な面でも拘束しないケアを心がけ、内部研修でも趣旨の徹底をはかっています。日中は施錠しておらず、外に行こうとする時はさりげなく声かけし、同行するようにしています。	身体拘束は行われておらず、禁止の対象となる具体的な行為を示した身体拘束マニュアルに沿って内部研修を開催している。玄関は夜間のみ施錠しており、昼間は利用者が自由に外出できるようになっている。外出する際はセンサーでわかるようにしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や月例会等でも学ぶ機会を持ち、精神的な虐待についても常に情報を共有し、防止に努めています。		

ポテトタウン 北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を必要とするケースは現在発生していませんが、内部研修や月例会等で学ぶ機会を作っています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には利用者のご家族に対して、ホームの理念や重要事項等詳細に説明し、理解、納得を頂いています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	朝の申し送りや月例会などで、各利用者の状況や変化、意向等を話し合い、利用者の意向に添った運営に努めています。	家族が来訪した際に30分から1時間くらい話をして意見を聞く他、近況を記した「ポテト新聞」や利用者ごとに作成する「担当者の感じた変化の要点」の書類も家族に送り、情報提供を行っている。玄関には意見箱も設置している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや月例会などで意見を述べる体制が出来ています。また会議での意見具申が出来ない時は、連絡帳などに記入することで、意見が反映されるようになっていきます。	朝のミーティングや毎月の定例会議で活発に意見交換している。管理者も含めて職員同士は意見の言いやすい関係にある。広報やレクリエーションなど職員が役割分担して運営に関与している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も現場に来ており、職員の業務等は把握しています。資格取得にも支援を行い、取得後は給与等に反映され、やりがい、向上心を持って働けるよう条件の整備が行われています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修は状況に合わせて行われており、外部研修等は個人が参加、研修を行い、内部研修に取り入れられています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の会議等、管理者だけでなく職員も同行し、交流を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用者とおやつの時間を楽しんだり、体験宿泊等も取り入れ、入居後は本人の意向を尊重して担当職員を配置するなど、本人の安心を確保出来るよう努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者、ご家族の立場に立ち、不安や困っていること、支援して欲しいことなど、話しやすい雰囲気の中で傾聴しながら関係づくりに努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特に早急な対応が必要な相談者など、本人、ご家族の要望を傾聴し、最善の道が開けるよう、話し合い、対応に努めています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	少人数のため、家族のような暖かい雰囲気の中で、時間の許す限り寄り添い、一緒に暮らしを共にするという関係を築いています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の家族は少なくとも月1回は来訪されるため、面会時に、日常生活の状況や変化などを、詳細に伝えています。また日頃より電話などで気軽に話し合える関係を築いています。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人等が来訪された時は、また気軽に訪問されるよう働きかけ、関係が途切れないよう支援に努めている。	利用者の知人や友人の来訪を歓迎しており、クリスマスや新年挨拶のはがきを一緒に作るなど手紙での知人との関係継続も手伝っている。馴染みの手芸店やアイスクリーム屋さんに行きするなどの支援も行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな利用者には個別に対応し、共同作業やレクリエーション等も全員が関わり合い、支え合える支援に努めています。		

ポテトタウン 北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され他の施設に移られた利用者には、時々面会に伺い、ご家族にも困ったことなどあったら気軽に相談に見えるように伝えています。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向が聞かれない場合でも、生活の場面から関心事を把握し、家族の情報などを得ながら、本人のニーズにつながるよう支援しています。	言葉で思いや希望を表出できない場合も表情や仕草、目の動きなどから把握している。家族とともにセンター方式のアセスメントシートを作成し、本人の情報を蓄積する仕組みができています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とご家族からの聞き取りと、入所時に記入いただくセンター方式のシートの情報などからこれまでの暮らしの把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活のリズムを把握し、心身の状態や有する能力等の現状の把握に努めています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の月例会が介護計画のモニタリングの場となり、各利用者の担当者と、本人、家族の要望を取り入れた計画が立てられ、利用者にはわかりやすく説明されています。	介護計画は短期が3ヶ月、長期が6ヶ月毎に見直し作成している。家族や職員の意見を集約してカンファレンスを行っているが、カンファレンスの記録やどのように評価したかの記録は十分といえず、介護計画を意識した記録の面でも向上が期待される。	介護計画への正確な反映や計画の更なる共有化のため、カンファレンス内容や評価内容の記録を期待したい。また介護計画を意識できる日々の記録方法の検討も期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や各種のデータは毎日詳細に記録され、職員間で情報を共有しながら、介護の実践や介護計画の見直しに生かされています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況と要望に応じて、通院、買い物など、必要な支援には柔軟に対応しています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の方々や、地区の民生委員の方などが定期的に来訪され、防災訓練などには一緒に参加いただくなど、連携が深まっています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療で対処していただいておりますが、本人やご家族が希望される専門病院等の適切な医療も受けられるよう支援しています。	提携医療機関による月2回の往診を受けている。他のかかりつけ医の場合でも家族による対応が難しい場合は事業所で通院支援している。受診内容は「主治医の診断と所見」に整理され、毎月家族に報告されている。	

ポテトタウン 北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置されていないため、協力病院の助言で支援しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、職員が交代で病院との連絡にあたり、その時々々の状態や変化などを把握し、退院時の支援体制を整えています。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期に向けた説明を行っています。重度化の恐れがある場合には速やかにご家族や関係者と話し合い、方針を共有するようにしています。	利用開始時に事業所の対応可能な範囲について家族に説明している。医療行為が必要となる場合の事業所での対応は難しく、その場合は一緒に受け入れ先を探す支援を行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救急救命の講習に参加しており、定期的に消防士や救命士の方から、救急手当や怪我の手当などの指導を受けています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や町内会の方々の協力を得て、定期的に避難訓練等を行い、消火器の使い方などの自衛訓練を実施しています。	年に2回以上、昼夜を想定した避難訓練を実施しており、職員の救急救命訓練も定期的に行っている。地域の方も含めた連絡網や通報システムも整備されている。一方、災害時のマニュアルや防災備品は整備が必要と考えられる。	避難訓練実施時のマニュアルや訓練記録の整備、水や食料など防災備品の整備を期待したい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の自分らしさや誇りが持てる暮らしを実践し、人格を尊重した支援をしています。	呼びかけは「さん」付けとし、態度や言葉遣いを職員同士で注意し合っている。個人ファイルの保管場所を整備中である。外部に情報提供する際は個人が特定されないようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや希望をさりげなく聞いたり、入浴時やボディーケアの中での言動や表情などを観察し、把握するように努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握し、その人の自由な過ごし方を尊重し、希望に添った支援をしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の着替え等は本人の好みで選んでいただき、その日の気温や天気に合わせて助言しています。訪問美容の時は本人の意向を伝えています。		

ポテトタウン 北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ、好きなもの、食べられない物等は把握されており、メニューを一緒に考えるなど、希望に添った食事の提供が行われています。後片付けなども一緒に行っています。	献立は、冷蔵庫の食材や畑で取れた旬の野菜などの範囲で利用者の好みを聞きながら決めている。利用者は後片付けなどに進んで参加している。誕生会にはケーキや好物を作り、毎月1回の外食も職員と一緒に楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量等は記録に残し、各人の状態や体調にあわせて、主治医の指導により支援しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や食後の口腔ケアは必ず行い、義歯等に不具合が生じた時は、歯科医を受診するなど対応しています。義歯洗浄剤に関しても、誤飲等のないよう安全面に留意しています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人の排泄パターンを把握し、自立できていない利用者は誘導や介助するなど、気持ちよくトイレで排泄できるよう、自立に向けた支援を行っています。	殆どの利用者が一人でトイレに行けるが、自立が難しい利用者には表情や態度を観察しつつ、一定時間ごとにトイレ誘導している。誘導時の声かけや失禁時の対応も、利用者の羞恥心や不安に配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者には水分摂取量を増やしたり、食事を工夫し、運動量を増やし、腹部マッサージ等を行っています。効果のない場合は、主治医の指示により便秘薬でコントロールしています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週4回の入浴日を設定していますが、個々の体調に合わせて入浴日を変更したり、本人の意向を中心に、夜間以外は自由に入浴できるよう支援しています。	一人ひとりの健康状態を把握しながら、利用者の希望に沿って週2回以上入浴できるように支援している。入浴介助は利用者のできることに手出しせず、入浴剤も多種揃えて楽しく入浴できるように工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に配慮し、日中の活動や生活のリズムを作るよう心がけ、居室でのプライベートな時間を持たせるなど、精神的、身体的に安心して気持ちよく眠れるよう支援しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容はファイルされており、全職員が把握できるようになっています。副作用についても医師や薬剤師のアドバイス等を参考に症状を把握し、確認投与を行い、誤薬、欠薬のないよう細心の注意を払っています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、自然に役割分担がされており、率先してお手伝いする方、周囲を笑わせ和ませる方など、それぞれの個性を生かし、レクや催事を企画し、和やかな共同体を作るように心がけています。		

ポテトタウン 北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調に合わせ、散歩やドライブなど希望に応じて支援しており、お買い物なども個別に対応しています。	気候の良い時期には近くの公園で毎日でも散歩し、時にはお弁当を持参し外で食べている。車を利用して個別の買い物や景色の良い場所へのドライブなど毎週外出している。また、年1回はバスでの日帰り旅行を企画し、冬季でも月1回は大型店で買い物と外食を楽しんでいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の意向により、金銭の管理はホームでさせていただいています。買い物等は自由に出来るようになっており、その都度金銭出納帳に記入し、毎月家族の方に領収書の確認とサインを頂いています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は(お手紙、FAXも)自由で、自分で掛けられない方には職員がサポートし、居室で話せるよう気配りしています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者共用の居間には、みんなが和やかに集えるよう、テレビや、長いす、などが置かれ、自由にお茶が飲めるよう常時ポットやカップが用意されています。	居間の窓は大きくて明るく、高台に位置していることから窓からの眺望も爽やかである。居間の壁には職員が工夫した飾りものや写真が飾られ、レトロな木製家具が配置されているなど居心地の良い空間となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時間に、好きな場所で、新聞や雑誌を読んだり、手芸をしたり、また1人ゆっくりくつろげるよう、椅子やテーブルはいつも解放されています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具などを用意していただき、今までの生活と同じように、居心地よく生活できるよう工夫しています。	居室には利用者の使い慣れた家具やテレビなどが持ち込まれ、家族の写真や誕生日に職員から送られた寄せ書きなどが飾られ、安心して過ごせる空間となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの生活の中で、何が出来ないかではなく、出来ることに自信を持たせ、自立した暮らしが出来るよう工夫しています。		

目標達成計画

事業所名 ポテタウン 北の沢
 作成日: 平成 23年 6月 7日
 市町村受理日: 平成 23年 6月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画への正確な反映や計画のさらなる共有化のため、カンファレンス内容や評価内容の記録を期待したい。また介護計画を意識できる日々の記録方法の検討も期待したい。	介護計画の中の利用者様のニーズの実現に向け、介護計画書と介護記録を連動させる。その結果常に目標を意識した介護が出来るようにする。	介護計画書の各項目にno.を点け、介護記録もそのno.についての経過や施行等を記録するようにし、月例会等でその情報を共有、現状を把握し、つぎの段階の対応、介護についてみんなで話し合いできるようにする。	3ヶ月
2	35	避難訓練実施時のマニュアルや訓練記録の整備、水や食料などの防災備品を期待したい。	年に2回以上の避難訓練の実施に加え、防災備品の整備をすると共に、訓練時の反省点などをみんなで話し合い、記録し、つぎの訓練に反映させる。	災害時を想定し、衛生用品や必要最低限の保存食や飲料水などを備え、訓練時に備品の持ち出しや点検も訓練マニュアルに加え実施する。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。
 注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。